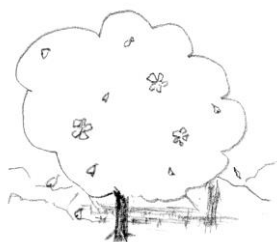


# 藤田浩子の 少し昔のこと 〈97〉

## 私の小学校1年生②

私の小学1年生は、かろうじて入学式だけはやってもらったものの、通学したのは2日か3日でした。入学式の日には、兄のお下がりの国民服に母が赤い花を刺繍してくれて、それなりにかわいい洋服を着ていきましたのでとても晴れがましく、よく覚えているのですが、あとはほとんど学校に通えない1年間でした。

大都市の小学生が学校ごと疎開する学童疎開は、急を要したからでしょうか、内閣だけで、いわゆる閣議決定で決めたそうです。国会にかけると戦争続行に反対する議員もいて、面倒くさいと思ったのでしょうかね、どうも閣議決定というのは、うさんくさいことをあわてて決めるときに使う手段のようです。対馬丸に乗って疎開しようとして撃沈された沖縄の子どもたちも気の



毒ですが、学童疎開で学校ごと地方に移住した集団疎開の子どもたちも気の毒でした。お風呂にもろくに入れず不衛生なこともあったのでしょうか、食べるものも満足でなく、病気になったり、虱や蚤に悩まされたり、苦しい生活だったようです。

それでも疎開先でお世話になった人たちと、戦後も交流していた人たちもいます。地域の受け入れ方もよかったですでしょうけれど、宿を提供した旅館やお寺など、直接世話をしてくれた人たちの気持ちが子どもたちにも伝わったのでしょうか。

国から小学生の集団疎開を受け入れるようにと依頼（命令？）があったとしても、自分たちの暮らしもままならないのに、よその子どもどころではないというのが本音でしょう。地元の子なら、百姓仕事もある程度できるし、子守もできるでしょうけれど、都会から来た子は、仕事もろくにできない子が多かったとか。実際、畑仕事の手順も知らない子が多かったでしょうけれど、その前に、栄養失調の子が多かったのです。

リレー連載 <230>

## わたしの大好きな絵本

渡辺隼斗（ベリーズ）

「えー！びっくり」と思わせるしかけ絵本です。帽子の中から色々なものが飛び出してくるので「何が出てくるんだろう？」と、早く次のページをめくりたくなる場所も魅力の1つです。文字も多くないので、小さなお子さんに読み聞かせるのもピッタリ！大人も予想できない展開に誰もが楽しめる絵本となっています。読み終わると「もういっぱい！」と、何度も楽しめます。

保育園で繰り返し読み聞かせをしていると「僕も読みたい！」と、お子さん達の方から自分流に読んでくれます。面白い音をつけたり、動きを入れたり等…、アレンジしやすく読みやすい絵本です。

『ぼうしとったら』

作：tupera tupera

出版社：Gakken

また、しかけのめくるタイミングを、すぐにめくったり、あえて間をあけてめくることで楽しさも倍増します。

皆さんも色々なアレンジをして読んでみてください。

